竹内です。今日は、参加できないので、コメントを書いておきます。

第三者機関にまで言及していただいているのは、驚きとともに評価しています。実際は、第三者機関には、記載の通り、悲しい歴史があるので、乗り越えなければならない課題も多いと思いますが、日本の英知を結集するときだと感じています。

キーワードは、リバランスとモアサービスと感じています。

１．リバランス

まず問題は、時代の流れで、昔考えたシステムを今の時代に合ったシステムに、「リバランス」することです。

１）実効性のある取組のために

「こども家庭庁が主務省庁となって、青少年インターネット環境整備法の所管省庁である総務省、経済産業省と緊密に連携して各論点の検討を進めるものとする」は、今後進めやすい整理と思います。特に、今後の実効性のある進め方をするためには、特に事業者に関係する部分については、事業所管省庁において当事者と調整する必要があることから、総務省や経済産業省の役割に期待したい。

２）リスクの多様化への対応について

フィルタリングの課題は、今回の大きな論点だと思います。

①新しい課題への対応（受信から送信へ）

・送信制限

現状のフィルタリングは、名前の通り、「受信」制限です。今の子どもたちの課題は、「送信」もあります。このあたりを含めた「フィルタリング」が必要です。容易化以上に、新しい技術への対応が必要です。

・新しい枠組み

現状、受信制限を求めているので、フィルタリング会社にその指向性がない。新たに求めていく必要がある。さらに携帯電話事業者にも、受信制限に対応した枠組みしか持っていない。そういう対応を求める必要があれば、応分の負担をどうするか、課題だと思います。

②新しい技術

・新しい技術を使ったフィルタリング

現状のシステム（DOCOMO、KDDI→ネットスター、Softbank→デジタルアーツ）でできないシステムがあれば、新しい技術ができる会社等の新規参入を含めて検討できるようにする。費用面含めての検討が必要であろう。

・OS 事業社、SNS 事業者、ソフト開発事業者の責務

ここが以前と大きな違いだと認識していますが、以前と違って、携帯電話事業者やフィルタリング事業者にできることが限られてきています。OS 事業社、SNS 事業者の責務をどう位置付け、どう役割を求めるかが重要と思います。

③第三者機関等

・議論が必要ですが、フィルタリングについて、携帯電話事業者とフィルタリング会社だけで考えている現状は良くないと思います。日本の子供たちを守る重要なシステムですから、何らかのかたちで議論し、改善できるシステムづくりが必要と考えます。第三者機関等がまず浮かびます。

・表現の自由とのバランス

この種の議論は、表現の自由とのバランスが必要です。憲法で保障された基本的人権に関わる重要な内容なので、安易には進められないですが、一方、子供たちの人権が踏みにじられたり、危険な犯罪に巻き込まれたり、いじめ等悲しい思いをする子供がたくさんいる現状や、海外からの標的になっていることを考えると、「表現の自由」があるから、一切考慮しない、では逃げ切れない時期だと思います。まさにリバランスが必要と思います。

３）年齢認証

よく検討していただいて、ありがたいですが、現状は、手段と方法がない交ぜになっています。方法は、マイナンバー含めて今後つめていけばよいと思いますが、国としてどういう方向性をまずは明確に示していただいたら良いと思います。オーストラリアの状況は参考にできると思います。特に事業者の努力を国として活かしていく方向性は注目すべきと考えています。

４）アダルト広告

国会で取り上げられ、社会的な注目度も高いことから、関係省庁が連携して取組を推進することが、喫緊の課題への対応として進めやすいのではないかと考えます。議論してください。

２．モアサービス

次の課題は、これまで国（事業者等）が一律にサービスを提供してきましたが、これからは必要な個人（保護者）に提供できるようにしていくシステムを用意していくことが必要になってくると考えています。新幹線のグリーン車のような感覚です。有償、無償含めて、今後の検討課題ですが、今、考えておきたいです。

１）親子でのスマホ連携

一部企業（Nintendo 等）で実施されている、親のスマホ等と子供の端末の連携が容易にできるようなモアサービス。容易に、がカギ。

２）親スマホを子に貸すときのワンタッチ切り替え

保護者がスマホを子どもに貸す例が多い。貸すタイミングにフィルタリングを簡単に設定できるモアサービス。

３）発信制限

発信する機会を制限するのか、発信内容を制限するのか、はっきり見えているわけではないが、議論していく必要がある。具体的にイメージしきれていませんが、将来的には発信のリスクを把握して注意喚起するようなサービス。弁護士ドットコムが試験提供している、「炎上リスクを Ai でチェックする」ようなイメージです。

https://www.bengo4.com/corporate/news/article/8pov1e9qc/